

平成 29 年 8 月 18 日  
東京学芸大学非常勤講師 伊東富士雄

東京都小学校社会科研究会 社会科夏季研究会  
ワークショップ2 (課題別分科会)「ノートや作品のまとめ方」

## 1 各グループの協議から学んだこと

指導上の課題は？

## 2 諸角先生の資料から学ぶ

(1)「ノートや作品」の新学習指導要領での位置づけ

(2) ノートの機能の把握

→さらに。

教師にとって子供の成長をみとる(評価する)有力な手立て

子供自身にとっても自分の学習を振り返り、自分の成長を認める場、機会

**教師が記述に対して、コメントを書くことで、子供に対する直接指導の場を確実に確保する。**

→ それは、

1時間授業を受けるということは、昨日までの自分と何か変化していかなければならない、

「**今日初めて**思ったり、感じたり、見たことを書く」という問いかけは、自分の変容を自分で気付くようにするための、意図的な教師の働きかけになっている。

考えること、それを文章に書ける子供に育てるためには、

子供の記述を教師が受け止め、認めるようなコメントを息長くしていかなければならない。

(3) 各学年の作品のまとめ方

発達段階に応じた多様なまとめ方

→ まとめ「作品作り」それぞれの特色を抑えておくとよい。

例えば

新聞(資料「新聞フォーマット」参照)

情報選択(思考力。判断力)

価値の可視化(価値を記事の大きさに捉えることができる)

トップ記事、セカンド記事、サード記事

見出し

なぜ、スポーツ新聞風なのか？（資料「玉川通信」参照）

社説(編集後記) 意見文、PISA型読解力に対応

教材研究の一環として、教師自身で新聞を作成してみるとよい

それも、子供を離れて自分自身の立場、視点で

新聞の特色と指導のポイントが見えてくる

### 3 今後の社会科への期待

暗記物社会科からの脱却の道を学習指導要領が示す

ノートづくりや作品作りはその具体化（諸角資料1）

社会的見方・考え方(伊東資料 新学習指導要領解説 p 20)

#### 社会科は暗記物だと思いますか？

はい	819人	62.5%
いいえ	170人	13.0%
どちらでもない	334人	24.5%

調査対象 1323人

玉川大学通信教育スクーリング参加者

東京学芸大学 初等社会科教育法受講者

愛知県小学校教員免許取得委託研修生（中学校教諭）

日本社会科教育学会全国大会発表論文集第12号 p 356

教育実習生の実習日誌より

講話で「社会科は暗記物でない」とおっしゃった。先生の授業を「ホントナノダロウカ」と思って参観させていただきました。

まず、参観前に

- ① 歴史の授業を暗記にさせないということは、どういう授業をやっているのか？
  - ② その授業に生徒がついてくるのだろうか
- と、好奇心を含めて思いました。

今までの慶安の御触書の授業に対しては、私がするならば、おそらく、教科書を読んでアンダーライン、それでも心配ならば資料にアンダーラインを引かせるしか考えなかったでしょう。ですからこの授業には驚きました。

(伊東著 小学校社会科「新教材」授業設計プラン p 105)